

暑かつた夏も過ぎ去り、季節は秋に向けて木々の葉がすこしづつ色を変え始めました。秋は、スボーツ・食欲・読書と、私たちにとつて過ごしやすく、活動的な季節です。

先日、子どもに「この本を読んで」と言われました。「葉っぱのフレディ 生命の旅」どこかで聞いたことのあるような題名だなあと思いながら読み聞かせました。物語は、春に芽吹いた葉っぱが、夏、秋を過ごし、冬を迎えるまでのすべての出来事を、主人公の葉っぱのフレディと友達の少しだけ大きな葉っぱのダニエルとの会話から紡がれていきます。一本の大きな木に芽ばえたフレディという葉っぱの一生を通して、命、そして死というものは自然の中の変化の一部であり、すべてのものは必ずその変化をくり返し、新たなる命を生み続けていることを教えてくれます。子どもだけではなく、大人も今一度考え方を変えて、「生と死」を問うというテーマを内包した作品でした。

私たちはともすると変化することに目をそらしがちです。命が永遠であってほしい、今の生活、そして環境が続いてほしいと願います。しかし、現実は違います。人は生まれてから誰しもが老い、病を経験し、そしてすべての生あるものは遅かれ早かれ必ず死を迎えます。

そこで、死というものを変化ととらえ、世の中の事象が常に変化していくように、私たちの生命もまた変化していきます。葉っぱが落ちてもその葉が、なお木の栄養分となり、新しい芽を息吹かせる手助けとなります。私たちが生きてきた行動は次の世代への行動の指針となります。私たちは父母、そして代々のご先祖さまのおかげで、こうして幸せに暮らすことができていることに気付き、感謝しなくてはなりません。秋の落ち葉を見たとき、この落ち葉が栄養となつて木を支えているように、私たちはご先祖さまの生命の連鎖に支えられ今を生きているのです。

私たちの日々お唱えするお題目は、本佛釈尊がお唱えされ、宗祖日蓮大聖人がお唱えされ、ご先祖さまが脈々とお唱えされた同じお題目、生命の蘇生、信心の血脉です。決して止めはなりません。秋のお彼岸には宗祖日蓮大聖人がお唱えになられた 本門八品上行所伝 本因下種之南無妙法蓮華經 のお題目を自他共にお唱えし、皆共に菩薩であることの自覚を持ちましょう。